

八戸市地域おこし協力隊活動  
状況報告書

八戸市長  
熊谷 雄一 殿

隊員氏名 大久保 加名子

次のとおり活動したことを報告します。

【活動報告月：2024年11月分】

1. 実施した活動の概要・状況

ECサイト(ローカルマーケットオンラインショップ)運営・改修作業、「冬のおすすめギフト」企画運営、ふるさと納税業務(新規返礼品の提案)、クリッピング作業、SNSによる広報活動を行った。

(主な活動)

【つがるワイナリー収穫祭視察】

11月9日、青森県鶴田町にある「つがるワイナリー」収穫祭の視察に伺った。県内では今だ発展途上であり、地域ブランド政策としてサポートを行っている自治体も多いご当地ワイン。そのような中「つがるワイナリー」では、名産の生食用ぶどう“スチューベン”を核とし伝統的なワイン造りを尊重しながらも、ひと手間加えた独自性のあるワインを生み出し、プロダクトとしての差別化が確立しているため、注目していたワイナリーである。

ワインのエチケット(ボトルのラベル)には津軽塗、岩木山を取り入れたデザインで、青森の文化や風土を表現している。明確な地域性を持つ商品を展開することで、贈答品や観光土産としての訴求力や地域ブランドの強化を図っていた。また、ワイン以外の関連商品(ソフトクリーム、パン、地元特産品)を常時提供することで多様な顧客層を呼び込んでおり、「ワイン目的でなくても訪れやすい」環境が整備されていた。

収穫祭の特別企画であるワイナリー見学では、発酵中のワイン試飲や醸造所の裏側体験(発酵中のタンクを覗ける)など、他にはない希少性の高いプログラムを提供されていた。ワイナリー見学などの体験コンテンツでは、今回の『発酵中ワインの試飲』のように季節限定のテーマを取り入れることで、内容の充実化、及びリピーターの獲得が期待できると感じた。

今回の視察を通し、「差別化」「希少性」「足の運びやすさ」「テーマ性」「持続性」は、販売であれコンテンツであれ開発する上で重要なポイントであることを認識できた。また、地域資源を活用した独自性のある取り組みで、物産振興と観光誘客の両面で可能性を秘めていると感じた。ここで得た気づきを、今後 VISIT はちのへの活動に活かしていきたいと思う。



津軽塗×岩木山のエチケットボトル



ワイナリー見学の様子

## 2. 翌月の活動予定

EC サイト運営・改修作業、ふるさと納税業務(新規返礼品の提案)、ラジオ出演、SNS 発信など